

再 評 価 項 目 調 書

再評価実施要件		○ 事業採択後 () 年 ● 再評価後 (5 年) ○ その他 ()					
1 事 業 概 要	事業名	平生港 田布施地区 平生地区 海岸高潮対策事業					
	事業場所	熊毛郡田布施町麻郷～平生町首根					
	事業主体	山口県					
	事業期間	《 前回評価 平成 26 年 時 》 昭和 61 年度 ～ 令和 10 年度 《 令和 5 年度 》 (西暦 1986 年度 ～ 西暦 2028 年度 《 西暦 2023 年度 》)					
	総事業費 (内用地補償費)	≪ 5202 百万円 》 5,202 百万円 (- 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	4645.7 百万円 (- 百万円)	進捗率 (用地補償費)	89 % (- %)	
	事業目的	平生港は、周南工業地域を構成する田布施町及び平生町を背後地とし、瀬戸内海における物資集散の拠点として、古くから栄えてきた港である。 当地区の海岸保全施設は、天端高などの防護機能が不足しており、台風時には民家、道路等が越波による浸水被害に見まわっている。また、昭和30年から50年代に整備されたものが多く、施設の老朽化が著しい。このため、一連の防護ラインを構築することにより、越波浸水被害を軽減し、背後地の生命、財産を防護する。					
	事業内容	○田布施地区：護岸(改良)L=1,115m, 護岸(補強)L=592m, 堤防(補強)L=1,410m 胸壁(改良)L=341m ○平生地区：護岸L=68m, 護岸(改良)L=2,757m, 離岸堤L=200m, 樋門(改良)3基 設計高潮位：C.D.L+5.21m (T.P+3.47m)					
事業効果	高潮対策における浸水被害防止効果 浸水戸数 291戸 → 0戸 浸水面積 132.6ha → 0ha 被害額 89,331百万円 → 0円 平成16年9月の台風18号の高潮時における浸水被害防止効果 浸水戸数 4戸 → 0戸 浸水面積 0.2ha → 0ha 被害額 8百万円 → 0円						
2 再 評 価 の 視 点	(1) 社会経済情勢の変化に伴う必要性の変化	浸水区域に関する指標のうち、前回評価時から人口は減少傾向であるものの、世帯数は同水準であり、背後地には、経済活動や日常生活を行う上で欠かすことができない重要な施設があることから高潮対策の必要性は依然として高い。 【浸水区域に関する指標の変化（国勢調査）】 (熊毛郡田布施町大字麻郷・平生町大字首根) ○人口：0.96倍 (5,203/5,446人) <H27/H22> ○世帯数：1.01倍 (2,080/2,076世帯) <H27/H22> (県全体) ○人口：0.97倍 (1,405/1,451千人) <H27/H22> ○世帯数：1.00倍 (597/596千世帯) <H27/H22>				中項目 評価	大項目 評価
	関係市町及び地元の意向	地元自治会では、高潮に対する防災意識・関心度は高く、高潮対策事業の推進に協力的であり、地元要望は非常に強い。				中項目 評価	大項目 評価

区分	主な項目	(単位：百万円)			備考
		前回 (基準年：H26)	今回(再々評価) (基準年：R1)		
		全体事業	全体事業	残事業	
便益 (B)	①一般資産等被害削減便益	25,833	31,566	9,040	
	②公共土木施設被害削減便益	46,499	56,818	16,271	
	③公共事業等被害削減便益	775	947	271	
	④その他の便益				
	総便益	73,106	89,331	25,582	
費用 (C)	①事業費	8,978	12,028	413	
	②維持管理費	641	754	238	
	③その他				
	総費用	9,619	12,782	651	
費用便益比(B/C)		7.6	7.0	39.3	

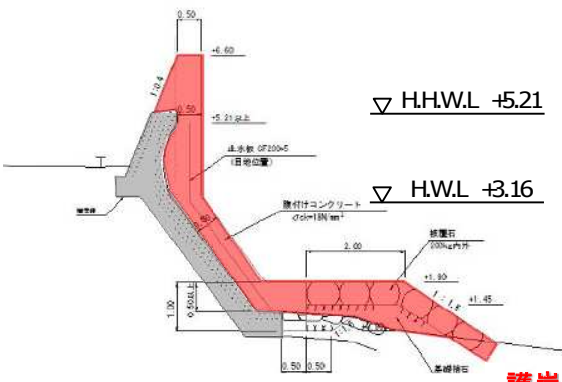
※便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額
【費用対効果分析手法】
○根拠マニュアル
海岸事業の費用便益分析指針(平成16年6月)農林水産省農村振興局、農林水産省水産庁、国土交通省河川局、国土交通省港湾局とする。基準年は令和元年とする。
①一般資産等被害削減便益：防護地域内に存在する一般資産(家屋、家財、事業所、農作物、農漁家)に対する被害削減額
②公共土木施設被害削減便益：防護地域内に存在する公共土木施設(橋、道路、公園、等)に対する被害削減額
③公益事業等被害削減便益：防護地域内に存在する公益事業等(電気、ガス、水道、等)に対する被害削減額

大項目評価	A B C
-------	-------------

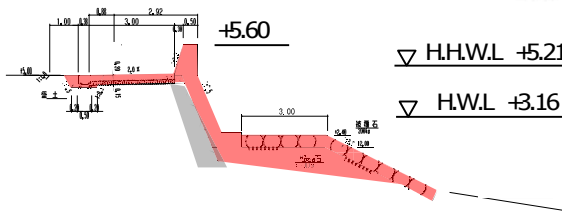
2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	上記の表	大項目評価 A B C
		(3) 事業の進捗	<p>令和元年度までに以下の事業が完了している。 ○田布施地区：護岸(改良)L=895m, 護岸(補強)L=592m, 堤防(補強)L=1,410m ○平生地区：護岸L=68m, 護岸(改良)L=1,927m, 離岸堤L=200m, 樋門(改良)3基</p> <p>残工事において、事業進捗における阻害要因はなく、今後計画的な進捗が見込まれることから、引き続き、施設改良等を行い、浸水被害の軽減に努める。</p> <p>【事業費の変化】 有 (無)</p> <p>【事業期間の変化】 (有) 無</p> <p>近年の公共事業費の縮減に伴い、事業計画工程に対し実施工程が遅れている。これを受け事業の進捗状況や残事業量等を再精査した結果、設定した事業期間内での事業完了が困難であることから、事業期間を延長する。</p>	大項目評価 A B C
4 再評価の視点	(4) 代替案等のコスト削減の可能性	コスト削減	既設護岸及び胸壁を有効活用することでコスト削減を図った。	中項目評価 a b 大項目評価 A
		代替案	既設護岸を有効活用する当計画が経済性に優れ、かつ、背後環境への影響が少ないことから、計画どおり進めることが妥当と考える。	中項目評価 a b 大項目評価 B C
3 環境	配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 汚濁防止対策として、海上工事に際しては、汚濁防止膜を設置する。 平生港の干潟にはカブトガニが生息しており、産卵場付近の工事については産卵期間を外して工事を行う等、カブトガニの生息環境に配慮して施工を行っている。 		
4 対応方針	事業実施主体案)	総合評価	● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止	
		評価理由	事業の必要性、費用対効果等を勘案し、事業継続が妥当と判断する。	
		備考		

平生港 海岸高潮対策事業 (田布施・平生地区)

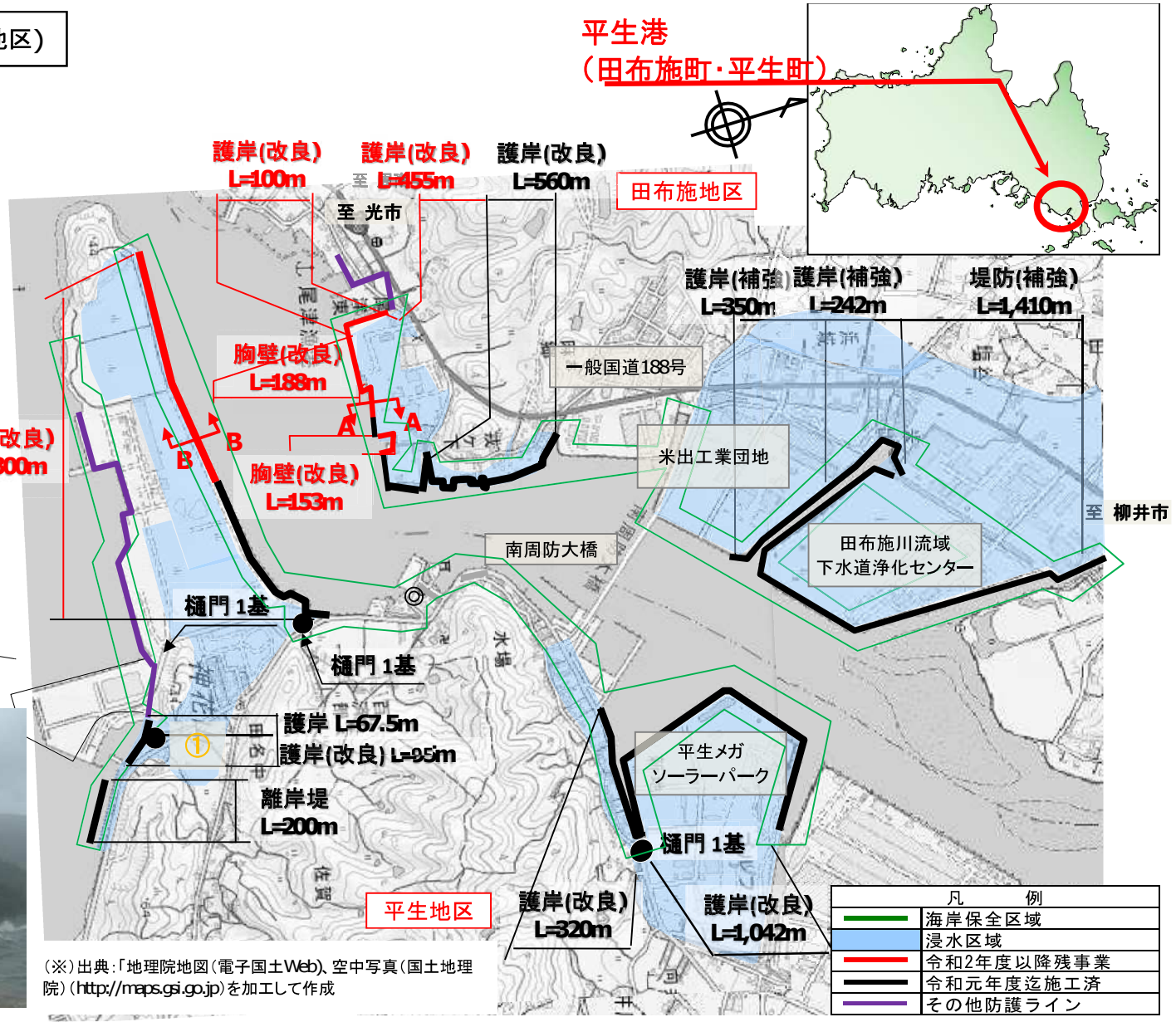
A-A断面: 護岸(改良)(田布施地区)



B-B断面: 護岸(改良)(平生地区)



①平成11年台風18号被災状況(平生地区)



(※) 出典: 「地理院地図(電子国土Web)、空中写真(国土地理院) (<http://maps.gsi.go.jp>)を加工して作成